

# 2022年度

## 学校評価（自己評価）

目標	子どもが集団の中で、遊びを楽しみ、育ち合う。
計画	○幼稚園生活の中で、子ども達一人ひとりの“個”の存在を大切にしながら、物事に向き合う力や、集団の中の一人としての意識を育てる。 ○生活する基礎を培い、生きる力を養う。 ○今ある環境を活かし、親育てをしながら、子どもの心を育む。

### <今年度の取り組み>

2022年度はこれまでの経験からウィズコロナでの新しい生活様式を取り入れ、できる限り活動を止めることなく行事に取り組んできた。陽性者の報告が出る度に休園ではなく学級閉鎖の対応をとり、教育活動を止めることはなかった。また、保護者の活動においては、制限を行うものの徐々に緩和させ、サークル活動やバザー製作など園内での活動を通常通り行えるようにした。夏の暑さが厳しくなり熱中症の心配からマスクを外したいという子も多く、保護者から同意書をもらいマスク着用を強制はしなかった。室内でのマスクの着用や密集する場面での写真撮影（濃厚接触者の割り出し用）、昼食時の衝立使用や座席間隔の維持、黙食、保育室の遊具やトイレの消毒といった感染対策は毎日続けた。夏休み明けからは学級閉鎖の対応は行わず、陽性者とその濃厚接触者のみ出席停止とする対応へと変更になった。3月には感染対策が大幅に緩和され、子ども達の多くはマスクを着けずに過ごすようになった。また、記録写真や保育後の消毒も最低限となり、保育士の負担が軽減された。この一年でコロナ対応が大きく変化したが、その都度、臨機応変に対応していった。

4月 ・入園式は1クラスずつ4回行った。全学年が春の遠足に行くことができた。

5月 ・こどもの日の集いは通常通り開催。  
・日曜参観は園庭で学年ごとに行った。

6月 ・スカイパークに行った。  
・乗り物づくりや乗り物ごっこは通常通り行った。  
・色水あそびやどろんこ遊び、プール遊びを楽しんだ。1クラスずつ入り、ゴーグル着用OK。  
・さつま芋の苗を植える。1・2歳児クラスでもプランターに野菜の苗を植え、生長や収穫を楽しむことができた。また、ひまわりも育て、花が咲くことを楽しみに観察した。

7月 ・プラネタリウムに行った。  
・年長組の一泊保育は昨年に引き続き園内に泊まり、新たに「わっぱる」豊中市青少年自然の家で自然体験をすることができ良かった。園内に泊まることは、子ども達にとっては安心できるようで、発熱者も少なく、ぐっすり睡眠もとれているようであった。

- 8月
  - ・夏期預かり保育の利用人数が毎日約100人になる。
  - ・1・2歳児クラスではコロナ陽性者が判明し、陽性者はもちろん、その陽性者と接触が多い子どもを濃厚接触者とし、出席停止に協力してもらおう。クラス全体は止めずに保育を継続する。
  - ・熱中症予防のため各自で水筒を持ってきてもらい。こまめに水分補給を行う。
  
- 9月
  - ・暑い日が続いていたので、色水遊びやどろんこ遊びを継続して行う。
  - ・3～5歳児のクラスでもコロナ陽性者が多数判明し、その本人と濃厚接触者は出席停止の対応を取り、クラスの活動は止めずに済んだ。12月ごろまで複数のクラスで同様の対応を行う。
  
- 10月
  - ・新入園児の願書受付を行う。1号認定児の募集人数が15人と例年に比べると多く、当日受付に来られた方が20名で、抽選の結果キャンセル待ちとなった方は5名だった。
  - ・ナーサリー、満三歳児クラスの受付を行った。ナーサリーは水曜日クラスに数名のキャンセル待ちがあったが、月・木クラス、火・金クラスはピッタリ埋まる。満三歳児クラスは5名ほどのキャンセル待ち。ここ数年どのクラスもキャンセル待ちになっていたのだが、キャンセル待ちが2クラスのみとなり、少子化の影響が出てきているのかと心配している。
  - ・運動会は10月末に万博公園のグラウンドで行った。
  
- 11月
  - ・バザーはコロナ禍でお断りしていた小学1～3年生を招待し、盛大に開催することができた。ただ、一般の方は受け入れず、飲食も控え、食品類は持ち帰りにした。
  - ・秋の遠足は緑地公園へ歩いて行った。
  - ・社会見学は幼稚園バスに乗って天王寺動物園に行き、帰りもバス（千里山バス）を利用した。
  - ・お店屋さんごっこ、動物園ごっこは例年通り実施。
  
- 12月
  - ・クリスマス会はホールでディナーを食べずに保育室で分かれて食べた。それ以外は例年通り。
  - ・もちつきはお手伝いの出入りの業者は呼ばず、実行委員さんと職員で行った。
  
- 1月
  - ・やきいも大会は例年通り実施。
  - ・こま回し大会も例年通り実施。
  
- 2月
  - ・節分は今年度も豆を使わずボールや新聞紙を丸めて投げ合う。また、食べる用の豆は提供せず、サラダなど加工して安全に食べれるようにした、豆が喉に詰まる危険な事例が増えているため。
  - ・子ども会は今まで通り、2日に分け劇や合奏を観てもらった。
  - ・バイオリンコンサートを開催。
  
- 3月
  - ・3月にはマスク着用が個人の判断となり、ほとんどの子どもがマスクを外し過ごすようになった。
  - ・ひなまつり音楽会を開催。
  - ・お別れ遠足例年通り実施。万博公園で遊ぶ。
  - ・お別れ会は全園児が参加し、通常通り保護者に人形劇やコーラスを披露してもらおう。
  - ・卒園式は3年ぶりに年長全クラスで行うことができた。両親の参加を可能とし、また教師はマスクを外し、最後となってしまったが、今まで通りの卒園式を開催することができ良かった。
  - ・卒園式当日欠席した4名のために、後日3回卒園式を行う。

※退職者 … 石黒、新井、矢作の3名

※卒園記念 … ままごと用のハウス型遊具

評価項目		
心身の健全な成長（あそび）	体を十分に動かしてあそびを楽しむことができる。	△
	好きな遊びを見つけて存分に楽しむことができる。	○
	園の職員全員で子どもを育てている。	△
	様々な活動に挑戦する中で、友達と刺激し合い達成感を味わうことができる。	△
	他学年との交流をもち、育ちに生かしている。	△
	自分に自信を持ち、友達を認めることができる	○
	思いを言葉で伝え合い、豊かな表現力を身に付けることができる。	○
	遊びを通して相手の気持ちに気づき折り合いをつけることができる。	○
	戸外での遊びを通してバランスの良いからだづくりができています。	△
	子ども達自ら遊びを工夫し、ルールや役割のある遊びを作り出す。	○
	じっくりと遊びの時間をもっている。	△
教育環境（自然）	園内の自然（樹木、果実、花、動物、虫、畑の野菜）を通して季節を感じるができる。	○
	いきものに接することで“命の大切さ”を知ることができる。	○
	畑の野菜を育てることで生長、収穫、食べ物のありがたみを知る。	○
	夏期等、あずかりの体制が整えられている。	○
	木の実や落ち葉などの自然物を使って遊ぶことができる。	△
	実際の自然に触れ、五感を使って感じてみる。	△
	教師自身が園庭の木々や草花を知り、子どもの興味関心の動機づけができる	△
	起伏のある広大な敷地で遊ぶことができる	○
	植物や動物を育て、その成長に興味関心をもつ。	○
保健衛生（食育）	季節の伝統料理を頂く。	○
	食に対する意欲をもち、マナーを身につける。	○
	旬の食材や自園で採れた野菜を味わえる。	○
	アレルギー対応ができています。	○
	専任の保健師がおり、怪我の対応（簡易処置）を適切に行える。	○
	健康に過ごすための季節ごとの注意点を看護師や教師から教えてもらう。	○
	食育を保護者にも考えていけるように栄養士との相談会を企画し家庭での食育に園が力を発揮する。	○
保護者との連携	家庭訪問を行い、子どもが育つ環境を理解している。	×
	子育て相談、カウンセリングなど、保護者を支える体制が整えられている。	△
	ホームページで日々の子どもの姿を知ってもらう。	△
	保護者に、より保育のねらいなどを理解してもらう機会（参観や講座、懇談、グレース会、行事など）をもつ。	△
	クラスや個人の様子などを、電話やお便りで保護者に丁寧に伝えられるよう努めている。	○
	活動の過程を見ってもらう機会をもつ。	△
就学準備	グループ活動、リーダー活動を通して責任をもって行動することに気づく。	△
	文字、数字に興味をもつために、生活の中に工夫して取り入れていく。	△
	一つの目標にみんなで取り組み、達成感、満足感を味わう。	○
	一人ひとりの違いを認め共に育つようすすめていく。	○
	基本的な生活習慣を身に付ける。	○
	規範意識を身に付ける。	○
その他	卒園生へも園へ来ることのできる機会を与え、その後のつながりをもっていく。	△
	職員としての品位を保つよう心がけている。	△
	個々の教師としての向上心、同僚との意識の高め合いが感じられる。	△
	地域との関わりをもち、地域とも連携し、子育てを行っていく。	△

#### <今後の課題>

- ・コロナに関してはこの1年で対応も大きく変化し、2023年5月からは5類となり、制限のない、今まで通りの保育を実施できることはとても嬉しいことである。この機会を大切に、再度保育内容を見直し、今の子ども達に合った保育を実践していきたい。また、保護者連携を強化し、園での子ども達の様子を見ていただき、園と家庭で共に子どもを育てていく環境を構築していく。
- ・SDGsについての取り組みは積極的にできていない。ただ、自分の食べれる量を知り食品ロスを出さない、水を大切に使う、エコバックをつくり毎日活用するなど、自然と物を大切にする意識が子ども達にも芽生えてきており、簡単にできるところから始めていきたい。
- ・少子化が進み、他園では1クラス分の空きがでてきているようで、グレースも他人ごとではない。子育て支援に力を入れ早い段階でグレースの良さを伝えていく。まずは園庭開放を月2回実施する。